



市立三次中央病院 緩和ケアセンター主催
備北緩和ケア月例公開研修会④《通算第40回》

● 日時：令和元年7月8日（月）
18:30～19:30 講義・Q&A

● 会場：市立三次中央病院
健診センター2階 講堂

● 演題

治らない治さなくてよい認知症ケア の基本レシピ

ー 行動・心理症状 (BPSD) 対処のコツー

人口の超高齢化とともに激増しつつある認知症の中核症状（記憶障害・見当識障害・失語・失認・失行・判断力低下など）は「老化現象」として十分に理解・対応可能です。けれどもBPSDと称される周辺症状（昼夜逆転・徘徊・拒絶・異食・弄便・被害妄想・暴言/暴力など）は介助・介護の工夫を尽くしても解決しない場合が多々あります。実効性のほとんどない抗認知症薬には頼らない薬物療法も含めて、認知症ケアの基本原則を解説します。

市立三次中央病院 緩和ケア内科 臨床心理士
南 佳織

<講師略歴>

南 佳織(みなみ かおり)：

広島大学教育学部心理学科，同大学院教育学研究科心理学専攻卒業。
単科精神病院を経て，広島大学病院緩和ケアチーム，広島西医療センター物忘れ外来，JA広島総合病院緩和ケアチーム，片山内科クリニック（認知症専門，倉敷市）にて，これまで多数のがん患者および認知症者とその家族のケアに従事。平成30年1月から現職。
財日本臨床心理士資格認定協会認定臨床心理士。認知症ケア専門士。

